

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 姿川第二 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	127 人	算数	127 人	理科	127 人
第5学年	国語	107 人	算数	107 人	理科	107 人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

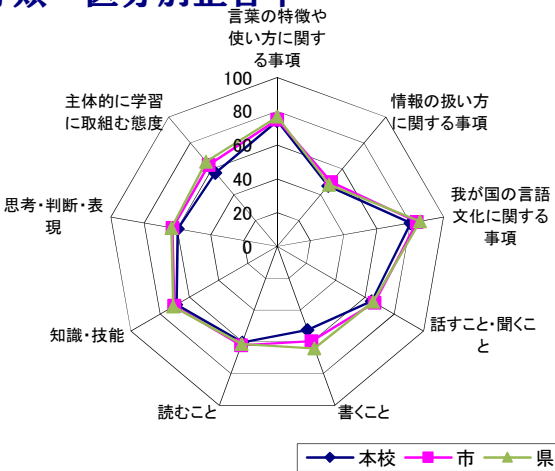
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.3	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	46.9	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	80.2	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	64.6	66.5	65.5
	書くこと	52.5	59.6	64.2
	読むこと	60.4	62.2	61.5
観点	知識・技能	68.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	59.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	56.9	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

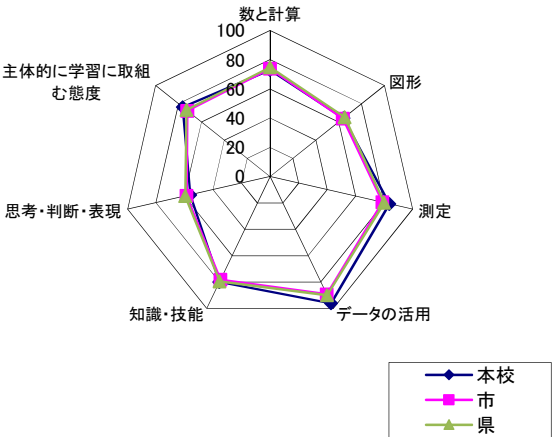
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は74.3%で、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読み書きについては、県の平均とほぼ同じだった。読みに関しては、平均をやや上回っているが、書き取りに関しては下回っているものがある。 ●段落の役割について理解し、自分の考えを2段落構成で書く問題では、37.4%と県平均の49.8%を大きく下回った。	・漢字学習については、今後も新出漢字の学習時に新出漢字だけでなく、熟語を取り入れたり、意味調べ学習も継続して取り組んだりするよう指導していく。 ・説明文の学習で段落に注目させ、段落の役割や内容を詳しく読み取る学習に取り組むようにして、学習の定着を図る。 ・文章を書く際に段落に分けるよさや具体例を明確に示すことで、自分の表現で段落を活用できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は46.9%で、市の平均49.6%をやや下回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心をとらえている。」では、37.4%と平均36.9%を若干上回っている。 ●国語辞典の使い方については、48.4%と県平均51.2%を下回った。	・タブレットの活用と並行し、多くの情報の中から必要なものを選んで取り出す活動を取り入れていく。その活動の中で、必要な情報を丸写しするのではなく、内容を理解して集約し、自分の言葉で表現する力もつけるように指導していきたい。 ・社会科や総合的な学習の時間での調べ学習でも、目的に応じた調べ学習ができるよう、指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	●「漢字のへんやつくりを理解している」項目では、80.2%と県平均85.9%を下回った。 8割は超えているが、「へんやつくり」についてはより多くの理解が必要。	・漢字学習については、部首を確認し、熟語、意味調べなどの活動を取り入れて、定着を図る。 ・国語辞典や漢字辞典の使い方やローマ字学習については今後も計画的に学習する機会を設けていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は64.6%で市平均66.5%、県平均65.5%を下回っている。 ○「話合いの内容を聞き取る」項目では、注意深く聞き、話の中心を明確にするための話し手の工夫をとらえることができている。 ●注意深く聞いているが、賛成か、反対か、自分の考えを理由を明確にして話すことは苦手な児童が多い。	・教科や特別活動の指導において、ペアやグループなどの少人数で話し合う活動を効果的に取り入れていく。また、自分の考えが相手に伝わるように、話をする内容を整理したり、話し方の工夫を考えたりする時間を確保し、理由を明確にして自分の考えを発表する機会を増やしていく。 ・友達の発表を聞く場面でも、話し手の工夫に注目するよう、指導をしていく。
書くこと	平均正答率は52.5%で、市59.6%や県64.2%を大きく下回っている。 ●書くことすべての設問で平均より下回っており、中でも、「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章をかく」については県平均より10%下回っていた。	・文を書く基本的事項を押さえ、普段から段落の構成や、文の長さ等を考えてから文章を書くことを心掛けさせていくようにする。 ・国語の授業だけでなく、他の教科等でも調べたことや経験したことを文章にまとめる学習訓練をしていく。 ・すべての設問に取り組めるように、普段のテストでも時間配分等に気をつけて取り組むようにする。
読むこと	平均正答率は60.4%で、市や県の平均とほぼ同じである。 ○「叙述を基に文章の内容をとらえている」項目では、92.3%と県の平均を上回った。 ●文章全体の内容とはとえられるが、段落ごとの文章については、うまくとえられていない。	・物語文では、叙述をもとに人物の気持ちの変化を捉えられるように、気持ちを表す言葉や文について考えたり、場面の様子を想像したりできるような指導を続けていく。 ・説明文では、段落を意識させ、大事な部分に線を引く活動を取り入れる。また、各段落どうしの結びつきにも着目し、まとまりを考えながら読み取れる指導を続けていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.9	73.8	74.8
	図形	64.2	63.7	65.3
	測定	83.7	78.9	80.1
	データの活用	96.2	89.3	90.0
観点	知識・技能	79.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	56.0	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	76.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

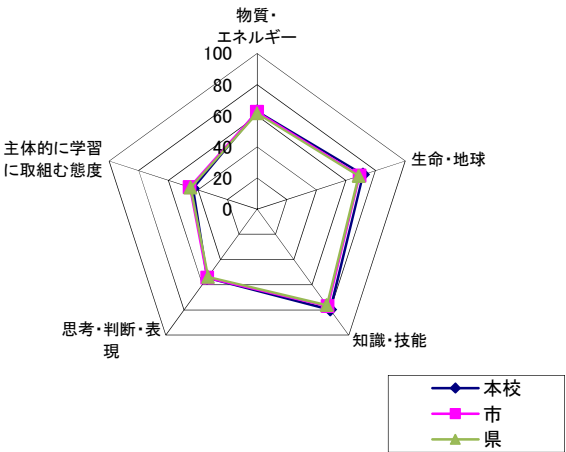
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○たし算とひき算については、十分理解している。 ●数などの相対的な大きさについての理解が不十分である。 ●暗算の仕方や割り算の意味を説明する等の問題については、記述の仕方についての理解が不十分である。	・今後も、基本的な計算問題に多く取り組ませ、基礎基本の徹底を図る。 ・半具体物を使用して、視覚的に量感をつかませる。 ・タブレットを使用し、ペアやグループ活動を取り入れ、自分で考え方を説明する活動を多く取り入れることで、理解を図れるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○円の直径についての理解や、二等辺三角形を作図することに関する問題では正答率が高かった。 ●複数の球を組み合わせた図から円の半径を求める問題では、正答率が低かった。 ●円の中心と円周上の2点を結ぶと二等辺三角形になることについての説明を求める問題は正答率が低かった。	・今後も、円や二等辺三角形の特長の理解が図れるよう、作図などを通して基礎基本を定着させる。 ・円の定義の定着を図り、類似の問題（球も取り入れる）に多く取り組ませる。 ・二等辺三角形の定義の理解を図るとともに、類似の問題で、説明する活動に多く取り組ませる。
測定	平均正答率は、市の平均を4.8ポイント上回っている。 ○時間の単位の関係はよく理解している。 ○地図から道のりを読み取ること、はかりの目盛りを正確に読み重さを計ることについては理解できている。 ●身近にある物の重さを推察して、適切な単位を使って表すことの理解が不十分である。	・長さや重さを測定することは十分理解できているので、今後も同様の問題に取り組ませ、さらなる定着を図る。 ・身近な物の重さを具体物で知る活動をさらに充実させ、単位と実際の物の重さが結びつくようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均を6.9ポイント上回っている。 ○表と棒グラフの問題では、棒グラフの1目盛りの表す数や、グラフを読み取る問題については、正答率が高く、資料を正確に読み取ることができていた。	・棒グラフは算数に限らず社会科等でも活用できるので、今後も算数で学んだことを他教科に活かす取り組みを行っていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.8	62.5	61.5
	生命・地球	71.6	69.2	68.6
観点	知識・技能	79.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	54.6	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	43.4	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は県や市の平均と同程度である。 ○「音のせいしつ」「風やゴムのはたらき」についての理解が十分できており、どの問題でも、県の平均を上回る正答率であった。特に、ゴムをのばす長さと車の動く距離の関係の問題では、正答率が81.3%で、県を11.3ポイントと大きく上回る結果であった。 ●電気を通す物質を問う設問では、正答率が63.7%で県の平均を8ポイント下回っている。 ●おもちゃの構造を理解して適切な回路を構想する設問では、正答率が50.5%で県平均を7ポイント下回っている。 ●種類の異なる物質を同じ重さにしたときの体積の大小を問う設問では、正答率が15.4%で県平均を6ポイント下回っている。	・実験の結果から、客観的な見方で実験から分かったことを自分なりに考えがもてるようにする。 ・観察や実験を通して、自然の事物・現象の性質や働きについて気付いたり確かめたりするなど、実感を伴った理解ができるように指導していく。 ・一問一答の問いだけでなく、自分の予想や考えを文章に書く活動など、様々な課題の形式に慣れさせる。 ・電気を通す物質を確かめる実験を丁寧に時間をかけて行い、経験を通して、電気を通す物と通さない物について理解できるようにする。また、理解したことを日常生活の中で生かす活動を行わせ、理解を深める。 ・回路をつくる際の導線のつなぎ方については、実験後に応用した回路図をかかせて理解を深めるようにする。 ・同じ重さで異なる物質の体積を問う問題では、重さと体積の意味とその関係を正しく理解できるまで説明する。
生命・地球	平均正答率は県や市の平均を上回っている。 ○植物の育ち方については十分に理解していて、市や県の正答率を大きく上回っている。 ●「こん虫のからだのつくり」の理解について課題が見られる。体の特徴から、昆虫か昆虫でないか判断する際にあしの数に着目できていない誤答が多い。 ●「太陽と地面のようす」の理解について課題が見られる。特に太陽とかげの動きに関しての問題は、正答率が50%未満であり、課題が見られる。	・既習事項を活用する問題に多く触れさせる。 ・ICT機器を活用し、観察の際にも実物と比較して詳細まで調べられるようにする。 ・自然の事物・現象の理解を図るとともに、実際に観察する際になぜそうなるのかも自分の言葉で説明するような活動を積極的に取り入れていく。 ・身近な体験と学習内容を関連付けて考えることで、理解を深めるような場面を設定する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合が県、市町村と比べ高い。意見を伝え合うことで考えを深め、広げられるようにグループ活動の場を設定していく。

○『勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある』について「はい」と答える割合が県と比べ高い。「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」について肯定的回答をする割合が県、市町村と比べ高い。授業では、導入で児童の疑問を引き出し、展開においてグループ活動や調べ学習を通して答えがわかる授業を行っていく。

○「授業を集中して受けている」について肯定的回答をしている割合は県平均より12.5ポイント高い。今後も児童が集中して学べる学習環境づくりに努めていく。

○「学校のきまりを守っている」について肯定的な回答をしている割合は県平均より20ポイント以上高い。今後も学校のきまりについて高い意識を持って生活するよう指導していく。

●「家で学校の宿題をしている」について「はい」、「どちらかといえば、はい」と答えた人が約95%と高い。「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答が県、市町村と比べ低い。宿題はほとんどの児童が取り組んでいるが、宿題以外の勉強ができていない。自主学習でよくできているものを学級で紹介することで取り組むことができるように促していく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」について肯定的回答の割合が県平均より低い。図書館の本や、タブレット端末で調べ学習する場を増やしていく。

●「学校の授業時間以外にふだん(月～金曜日)、1日どれくらいの時間読書しますか」について県や市町村と比べ短い。「1か月に、何さつくらい本を読みますか」で11冊以上読む割合が低い。学級文庫の充実やチャレンジ図書の工夫をして、児童の読書への意欲を高めていく。

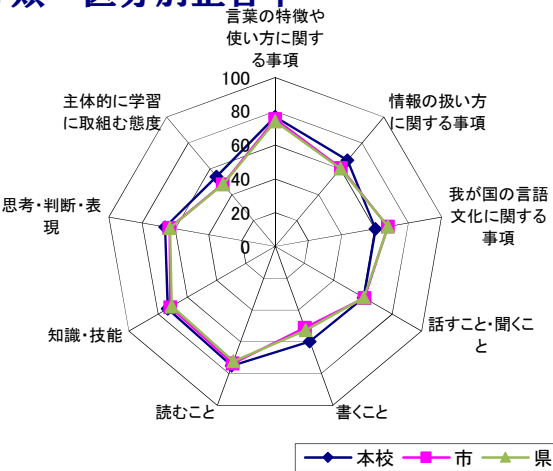
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」について肯定的な回答が約2割と低いが、「クラスは発言しやすい雰囲気である」について肯定的回答をしている割合は、県平均よりも高い。自分の意見や考えの発表を苦手に感じる児童が多いが、発表しやすいクラスの雰囲気づくりを今後も継続していき、発表に対しての苦手意識の軽減を図るとともに、個人の自信をのばすような声掛けを行い、授業内で活発な意見交流を図っていく。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について、肯定的な回答の割合が県平均より低い。各授業において自分の考えを元に他の考えを比較する等の活動の機会を設けて、様々な考えを深めたり広げたりすることに慣れていけるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.7	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	66.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	60.3	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	60.5	61.0	60.7
	書くこと	59.9	51.2	52.8
	読むこと	75.1	73.7	72.4
観点	知識・技能	73.4	71.7	70.6
	思考・判断・表現	66.2	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	54.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

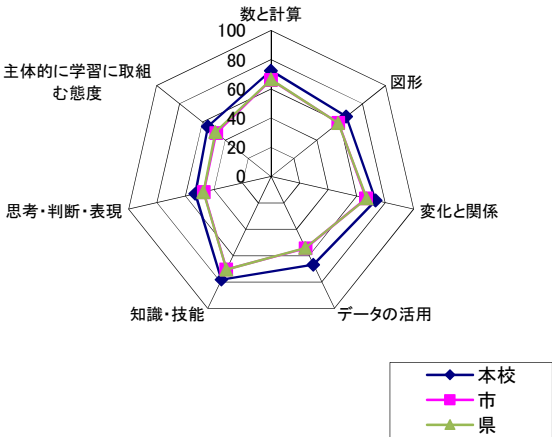
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県平均を2.6ポイント上回っている。 ○漢字の読みや書きに関する設問では、県の平均を上回っているものが多く、定着している様子が見られる。 ●連体修飾語に関する設問では、正答率が23.3%と低く、県平均を下回っている。また、記述の設問では正答率が49.3%と、県平均を下回っており、今後の課題である。	・漢字練習については、学習した漢字を使って熟語をつくる練習や意味調べをしながら語彙を増やし、更なる定着を図る。漢字を使った文づくりをすることで、文章の中で適切に漢字を使うようにしていく。 ・主語、述語、連体修飾語の役割を復習し、プリント学習等を通して繰り返し練習をすることで、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県平均を6.5ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方にに関する設問では、正答率が93.2%と高く、県平均を12.9ポイント上回っており、定着している様子が見られる。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す設問では、県平均をわずかに上回ってはいるが、38.4%と正答率が低く、今後の課題である。	・理由を説明する文章を書く課題を出すことで、児童が考えたことをまとめるだけでなく、根拠を明確にして文章にまとめる力の向上を図る。また、友達に説明をさせる際に、どこが根拠なのか明らかにして説明させることで、伝えたいことを選んだ理由が明確になるように指導する。 ・グラフやアンケートの結果を正しく読み取り、分かりやすくまとめる力を育て、理科や総合等の調べ学習の際にも生かせるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県平均を7.5ポイント下回っている。 ●ことわざの意味を知り、正しく使っているか問われた問題について市の平均も7.4ポイント下回っている。前年度の校内比においても大きく下回っており、この領域からの出題が一問だけなので、直接反映される。穴埋めの前後の文章を読み取る力の育成や、積極的にことわざを調べて、使うことが課題といえる。	・ことわざの学習では、意味を調べて、内容をまとめるという流れが多いので、小テストやことわざを使った文章づくりなど、学んだ内容を活用する機会を増やすことで語彙力の向上・知識の定着を図る。読書活動も推進し、文の構造理解や言い回しなど、文章に多く触れる機会を設定することで、ことわざの意味が合うか判断する力を育てていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることでは、県の平均より2.8ポイント上回っており、話の内容を聞き取ることができる児童が多い。 ●司会の役割を含めた話し合いから、意見の相違点に着目して、考えをまとめることが課題。	・説明の仕方や伝え方の工夫について意識して話を聞くことができるように、友達が発表する際に、説明の仕方でも上手だったところを褒めたり、どんなことに注意しながら聞くといいかなど、日々の授業の中で伝え方の工夫を意識して話したり聞いたりすることができる指導の工夫に努める。
書くこと	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことができる児童の割合は、県の平均より1.0ポイント上回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができる児童の割合は、県の平均より0.7ポイント下回っており、考えたことをまとめて記述することに課題が見られる。	・指定された条件で文章を書くことに慣れていない児童が多いので、文章を書かせる課題を提示したり、授業で読み取ったことをまとめるときに、段落構成を指定したりする等、文章をまとめて書く指導を行う。また、日頃から児童が考えたことを文章にまとめるよう指導することで、文章力の向上を図るようにする。
読むこと	平均正答率は、県の平均を2.1ポイント上回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題では、県の平均より6.7ポイント上回っており、物語の登場人物の気持ちを読み取ることができていると考えられる。 ●叙述を基に段落相互の関係を捉える問題では、県の平均より1.9ポイント高いが、段落の内容から当てはまる文章を考えることの習熟が求められる。	・説明文の指導をする際には、段落ごとに文章の中心になっていることを読み取らせたり、文章全体を通して作者が一番伝えたいことを読み取らせたりする等、中心となるキーワードを見つけることができるような工夫を行う。 ・読書を通じた読み取りの指導を日常の読書指導を通して行っていき、読み取る技能を身につけさせていくよう指導していく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.5	66.1	66.4
	図形	65.8	58.9	58.8
	変化と関係	73.4	66.6	67.0
	データの活用	66.8	54.4	54.2
観点	知識・技能	78.3	70.4	70.6
	思考・判断・表現	53.2	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	55.2	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

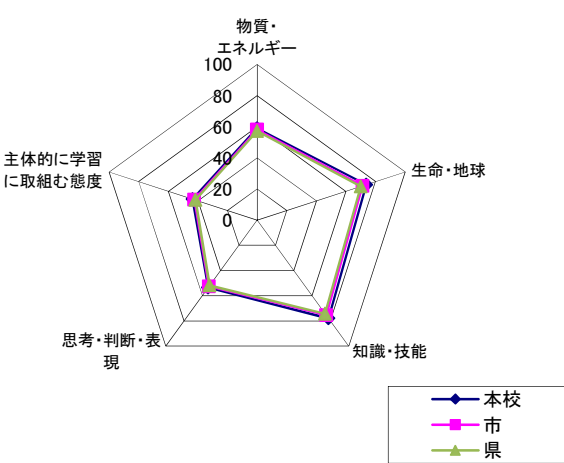
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均を6ポイント以上上回っている。 ○ほとんどの設問で、県や市の正答率を上回っている。 ○あまりありの割り算の問題には課題が見られるが、割り切れる小数の割り算は、県の正答率を大きく上回った。 ●数の大小を比較する問題では、問題文の読み取りがやや不十分なための誤答が見られた。 ●概数に対する数の範囲や分配法則について問う設問では、県の正答率を上回っているが、正答率は6割程度と課題が見られる。	・キーワードに印をつけることで意識させ、問題文を丁寧に読み取る習慣を身に付けさせる。 ・概数の範囲を理解するために、数直線上に概数の範囲や、「以下」「未満」を表すことで、視覚的に理解できるように学習活動を取り入れ、習熟を図るようにする。
図形	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○角度の読み取りや平行四辺形の作図については、県の平均を大きく上回っている。 ●面積の求め方は理解しているが、およその面積を選ぶ設問では、一辺の長さや面積の広さを混同したための誤答が見られた。	・面積の広さに対する具体的なイメージが不足しているので、生活場面と結び付けて考える学習活動を取り入れる。 ・単位の間隔を説明したり、単位の換算を正確に行ったりするために、それぞれの単位の意味を正しく理解させる。 ・多くの類似問題に取り組ませることで、問題に慣れさせ、習熟を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より7ポイント上回っている。 ○2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べることがよくできている。もとの数や比べる数、何倍の意味を丁寧にやさしく取り組んできた成果であると考えられる。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることに課題が見られる。	・単位量あたりの大きさを学習する際には、もとにする数は何かを文章や図、表から捉えらえるような授業展開の工夫をする。また、もとの大きさの何倍かを理解しやすくするために、可視化を図って授業に当たる。 ・2つの量の変わり方を学習する際には、問題場面を正しく捉え、式に表すことに慣れさせる。
データの活用	平均正答率は、市の平均より10ポイント以上上回っている。 ○2つの折れ線グラフから必要なことを読みとったり、二次元表の読み方を理解したりしている。グラフや表の読み取り方を丁寧に確認している成果であると考えられる。 ●読み取ったことを言葉や数、式を使って説明することに課題が見られる。	・教科を問わず、折れ線グラフや二次元表などを読みとる活動を意識的に取り入れ、グラフや表を読み取る力の定着を図る。 ・必要な情報を読み取る時に、どこに視点をおくと読み取れるかを活動のたびに確認するようにする。 ・読み取ったことを言葉や数、式を用いて表現する学習活動を日頃から取り入れるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.0	58.1	57.2
	生命・地球	73.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	78.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	53.6	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	43.7	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○「水のすがた」では、水を加熱するときに沸騰石を入れる理由を問われた問題において94.5%と正答率が高く、市の正答率よりも17.2ポイント上回っていた。 ○「物の体積と力」では、閉じ込めた空気や水に力を加えたとき、空気だけが押し縮められることをよく理解しており正答率が83.6%と高かった。 ●「電気のはたらき」では、乾電池の向きを入れかえたときの、車の進む向きを問われた問題において、正答率45.2%と、県正答率を16.8ポイント下回った。また、乾電池を2個使って、乾電池が1個の時よりも速く走る車にするための回路を作図する問題において、正答率の低い市の33.3%よりもさらに低い27.4%だった。 ●「水のすがた」では、市の正答率よりは上回ったものの、19.2%と低かった。	・これまでの学習で、実験や観察で得られた結果をもとに考察するという授業の流れが身に付いているため、今後も続けていく。さらに理解を深めるために、授業中、直列つなぎ・並列つなぎのちがいについてなどを図を用いて回路に表すことで、より深い知識の定着につなげていきたい。 ・「水のすがた」の学習は、水を冷やし続けたときのグラフの変化については理解していることがうかがえる。物質には、固体・液体・気体などの状態があり、「温度によって状態が変化すること」、さらに「どの状態に変化するか」ということについての誤答率が高いことから、実験の結果をとらえるだけでなく、そこからわかる全体としての考察に目を向けられるよう指導していく。
生命・地球	平均正答率は市の平均を上回っている。 ○季節と桜の様子の変化を答える問題では、県の正答率より12.6ポイント高く、82.2%の正答率であった。1年を通して植物の成長を観察してきたことが理解につながったと考えられる。 ○百葉箱について答える問題では、県の正答率より14.2ポイント高く、87.7%の正答率であった。気温を測る条件を正しく理解していることがわかる。 ●記録温度計のグラフからその日の天気を予想する問題では、県の正答率を6.7ポイント下回り、24.7%の正答率であった。グラフを正しく読み取る技能と、気温と天気の関係の理解に課題があるといえる。 ●時刻と月の位置を答える問題では、県の正答率を0.3ポイント下回り、23.3%の正答率であった。月の1日の動きの理解に課題があるといえる。	・天候と気温の関係をグラフから読み取る問題では、天候と気温の関係性は理解していることがうかがえるものの、グラフの横軸が表している時刻を理解できなかったため、誤答になった可能性が考えられる。今後は、実験結果を様々なグラフを使って表したり、そのグラフを読み取り、そこからわかることを自分の言葉で表現したりする活動を積極的に取り入れていく。 ・月の1日の動きを答える問題では、月の動きや見える方位の知識が定着していないことがうかがえる。観察などを通して、より実感を伴った学習になるよう授業を工夫する。また、天体への興味関心を引き出せるように、教具を有効活用する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」に肯定的な回答をした児童は、97.4%と高く、宿題をすることにに関してほとんどの児童が定着しているといえる。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強をしていて『不思議だな』『なぜだろう』と感じたことがある」に肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ県平均を大きく上回っている。また、「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は94.7%で県平均より上回っている。今後も、児童の学習意欲の向上につながるような学習活動を工夫し、分かる楽しい授業の展開を意識した教材研究に努めていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答した児童の割合は94.6%で県平均を上回っており、本校の取組の一つでもある「ほめてのばす教育」の成果が表れている。今後も、児童一人一人が自分のよさを発揮しながら生き生きと活躍できるように推進していく。

○教科の授業内容についての質問で、「授業内容はよく分かる・どちらかといえばよく分かる」と肯定的な回答をした児童が、社会科においては86.7%、国語・社会科・理科においては90%を超えている。また、学習した内容の活用に関する質問においても、肯定的回答が多い。今後も、「学ぼうとする力」や「学んだことを生かす力」が高まるような授業内容や指導方法を工夫していく。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」については、それぞれ県平均を下回っている。家庭学習強化週間等を生かし、自ら進んで家庭学習に取り組んだり、学習計画を立てたりする姿勢が育つよう継続して指導をしていく。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」について、肯定的な回答をした児童は72%で県平均を8.8ポイント下回っている。授業の最後に、本時の振り返りする時間を意図的に設け、学んだ知識の定着を図るとともにや次時への学習意欲につなげさせたい。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」について、肯定的な回答をした児童は71.3%で県平均を6.9ポイント下回っている。今後も、社会科を中心とした様々な授業で、インターネットや地図帳を活用する調べ学習を取り入れていく。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」について、肯定的な回答をした児童の割合は県平均をやや下回っている。授業展開の中で、話し合い活動の前には個別で思考する時間を取り、ノートやワークシートに自分の考えをメモすることをを行い、自信をもって自分の考えを述べたり相手の意見を聞いて考えを深めたりすることができるような話し合い活動の場を意図的に設けていく。

宇都宮市立姿川第二小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力・表現力の育成	様々な場面で根拠を示して相手に分かりやすく伝えるよう指導している。音読や読書活動を通して、語彙力・表現力を高める指導をしている。	5年生では、自分の考えを明確にして文章を書くことができる児童の割合が県の平均を上回っている。4年生では「グループ等で話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合が高い。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	宇都宮モデルをもとに、子供が「やってみたい」「知りたい」と思わせる導入の工夫や振り返りを自分の言葉で書かせる時間の確保を行っている。	4・5年生ともに「勉強をしていて『不思議だな』『なぜだろう』と感じたことがある」に肯定的回答した児童の割合は、県平均を上回っている。5年生では「授業内容はよく分かる」に肯定的回答した児童の割合が高い。
家庭学習の習慣化	発達段階に応じた家庭学習の内容・時間等を懇談会や便りなどで周知したり、年2回、家庭学習強化週間を実施したりしている。	4・5年生ともに「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答は95%を超えているが、宿題以外の学習には自主的に取り組めていない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語科の「話すこと・聞くこと」の内容で、「思考・判断・表現」に関する設問の正答率が市の平均より低い。また児童質問紙調査から、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」の設問に対しての正答率が県や市の平均を下回る。	自分の考えが相手に伝わるように、伝え方の工夫を意識して話したり聞いたりすることができるよう指導の工夫。	教科や特別活動の指導において、ペアやグループなどの少人数で話し合う活動を効果的に取り入れていく。友達が発表する際に、話し手の工夫に注目させ、説明の仕方で上手だったところを褒めていくなど、聞くことに意識させた指導を行っていく。